



皆様の「快適な暮らし」のヒントに

すまい造りメール

第225号 2020年12月号

SINCE 2002.4.1.

発行日令和2年12月1日
発行元有限会社佐野工務店
〒237-0068
横須賀市追浜本町1-25
TEL 046(865)4010
FAX 046(865)6139
http://www.sano-k.net/
info@sano-k.net

「禍を転じて福と為す」 ～たかのてるこさん～

生きてるだけで、めちゃめちゃ頑張ってる自分をほめちぎる！

70カ国を旅し「ガンジス河でバタフライ」等の紀行エッセイで知られる、たかのてるこさん。著者が、生きることに優しく向き合い、ロコミで14万部となった大反響のシリーズ（各500円！）の新刊「笑って、バイバイ！」のあとがきを紹介します。



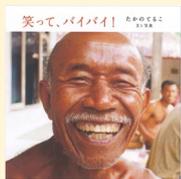
人生は「誰の人生が一番素晴らしいか」を競うレースではないし、やることは、ただ「自分らしく生きて、とことん楽しむ！だけだ」と思うのです。（中略）私もようやく、「自分イジメ」をやめ、毎日生きてるだけでめちゃめちゃ頑張っている自分を、ほめてあげられるようになりました。

大学の教え子の悩みから生まれた「生きるって、なに？」に続き、講演で人生相談を受けたことで誕生した、第2弾「逃げろ 生きる 生きのびろ！」。

第3弾「笑って、バイバイ！」は、今だからこそ、700万年も人類のリレーで繋いでもらった大事な命と向き合う、大きなチャンスだと思える本。コロナ禍で自死者が急増する今、自分に優しくあるために、おススメします。

「生きる意味」見つかる本

- 第1弾「生きるって、なに？」
 - 第2弾「逃げろ 生きる 生きのびろ！」
 - 第3弾「笑って、バイバイ！」
- ※全国の書店、アマゾン等で発売中（各500円＋税）



平成31年から介護保険住宅改修やリフォーム工事を担当させていただいているお住まいを紹介させていただきます。

今回はマンションの廊下のリフォームです。既存のジュータンを剥がし、下地の合板に傷んでいるところがないかを確認して、釘を締め直し、その上から防音性の高いフローリングを施工しました。

「前略 おせわ様。その後いかがお過ごしですか。」



「明るい色に仕上がり、気分も新たに新しい年を迎えられそうです」という感想をいただきました。

「劇的な」リフォームではないかも知れませんが、ビフォー、アフター、さらにそのアフターまでお手伝いさせていただきます。



皆様のご愛顧、ご愛読に感謝申し上げます



創業 1960.1.20.
創刊 2002.4.1.

Next100

よこすか文学館

<60>

横須賀が登場する文芸や横須賀にゆかりのある文学者を紹介します。

折笠智津子『妻のぬくもり 蘭の紅』(主婦の友社)

著者は、横須賀生まれの俳人折笠美秋（1934-1990）の夫人。美秋は栄光学園中高を卒業後、早稲田大学入学、「早稲田俳句会」（1年上に寺山修司、大橋巨泉がいた）に入会し句作を始め、大学を卒業し東京新聞入社後も活動を続けました。

しかし、彼は1982年、「筋萎縮性側索硬化症」の診断を受けます。この本は、身体のわずかの動きから夫の詠む句を読み取る作業など、難病の夫に寄り添う記録に、二人の馴れ初めや家族のエピソードなど発病までの思い出を織り交ぜたエッセイ風の読み物です。

1986年の発刊なので、巻末の「むすびに」では「アキ（＝美秋のあだ名）もまた生きる意欲を新たにしてくれることでしょう。そう願いながら」と記されています。



〔洗足学園中学高校教諭 中島正二〕

横須賀製鉄所物語（咸臨丸の帰国②）〈71〉

52年11ヵ月の間、都市政策を中心に横須賀市の発展に寄与され、最後の8年間は2期に亘り、横須賀市助役として活躍された井上吉隆氏に横須賀製鉄所についてお話を伺いました。

日本にとって初めての外交交渉の使節団である遣米使節団の正使一行と随伴艦である咸臨丸乗船者一同は、無事全員が日本に帰国出来たのでしょうか。残念ながら咸臨丸の乗組員の中で、3人がサンフランシスコの地において死亡しています。

咸臨丸がサンフランシスコ到着後、間もなく塩飽（瀬戸内海の諸島）出身の水主の源之助と富蔵が亡くなりました。そして、アメリカ滞在中に常時10人前後が海軍病院に入院していたとのことです。そして、咸臨丸が帰国するときには、乗組員の中、8人の入院患者がいたので、宗像善樹著『咸臨丸の絆』によれば、日本に帰国するにあたり「付き添いのため残留を申し出た塩飽出身の吉松と長崎出身の惣八の2名と共に残ることになった」、更に「木村は、水主や火焚たちだけで異国に残るのは心もとないだろうし、気の毒だと思った。士官たちも木村の意見に賛同して、公用方の小永井五八郎を残留させる案が浮上した。木村は士官たちの案を病院側に伝えようとした矢先に、勝が口を挟んだ。（言葉の通じねえ者を残しても無意味である。金を役人に預けて万事を頼んだほうがよい）またもや、木村が持参してきたドルを当て込んでの反論であり、木村への当てこすりだった。「咸臨丸の絆」遠い異国に取り残される不安な気持ちを抱える病人たちは、健常の士官が付き添い、残ってくれることを強く願ったが、勝は彼らの気持ちをまったく無視した」と記されています。



そして、木村撰津守は自ら持参した3,000ドルをサンフランシスコ市に預けて、後のことをお願いしました。入院していた病人のうち火焚の峯吉は、咸臨丸がサンフランシスコを出港して間もなく死亡したので、アメリカに渡った日本人のうち3人の尊い命が失われることとなりました。そして、この3人の墓はサンフランシスコ郊外の日本人墓地に建てられました。日本軍艦として初めての海外航海で命を落とされた方々の御霊を葬るため、海上自衛隊の練習艦隊がサンフランシスコを訪問した際には墓参されているとのことです。三笠保存会中塚事務局長のお話では、平成23年6月21日から24日にかけて墓参をされたとのことです。（元横須賀市助役 井上吉隆）



「横須賀製鉄所物語」（井上吉隆著）は、幕末の1865年、江戸幕府の勘定奉行小栗上野介の進言により、フランス人技師フランソワ・レオンス・ヴェルニーの下、横須賀の地で建設が始まり、その後、明治新政府に引き継がれたあと1871年に完成し、日本の近代化に大きく貢献した横須賀製鉄所について史実に基づいて再検証しまとめたもので、「すまい造りメール」に第137号「小栗上野介と勝海舟」（2013年7月30日発行）より連載させていただいています。

今年もお世話になりました

2020年は新型コロナウイルスに始まり、その猛威は依然として収まることなく、未だに心が休まる時がない不安な状況が続いています。弊社は昨年の台風で被害を受けたお住まいの補修工事のメドがようやく立ち始めた頃、非常事態宣言が発令され、感染拡大の予防のために、工事を一時中断しなければならなくなりました。その後少し落ち着いてから、地元のお客様のリフォーム、介護保険制度を利用した住宅改修工事を中心に組み合わせて参りましたが、現在に至るまで、工事が予定通りに進捗せずにご迷惑をおかけして申し訳ありません。少しでも早い、正常な営業にもどるべく、努力を重ねて参ります。

また、イベントの中止も相次ぎ、「よこすか産業まつり」につきましても2年連続で中止となりましたが、弊社ではリモートでご参加いただき、「SANTA'S HOUSE」の作成にご協力いただきました。ありがとうございました。

このコロナ禍において「ウシ年」の来年も引き続き、感染予防に努めなければなりません。「三密を避ける」ためには、適度なソーシャルディスタンスを保ちながら、文字通り「犇（ひし）めく」ことを控えるよう心がけましょう。

弊社としましては、いろいろな面でこつこつと次の準備に取り組んで参りたいと思います。

皆様におかれましては、少し早いですが、来年一年が良い年になることを心よりお祈り申し上げます。



お問い合わせ

住まいに関する皆様の疑問や質問、お知らせしたいことや情報などがございましたら、ご連絡ください。郵送の停止を希望される場合や、バックナンバーを希望される場合など、ご遠慮なく、お申し出ください。

尚、ホームページより「すまい造りメール」創刊号からのバックナンバーをはじめ、追浜周辺の地図「Oppamap 2020」A-9歩ZONE版（永久保存版）をダウンロードすることができますので、アクセスしていただき、ご活用ください。

皆様の「快適な暮らし」のヒントになることができましたら幸いです。

〒237-0068 神奈川県横須賀市追浜本町1-25 有限会社佐野工務店
TEL 046(865)4010 FAX 046(865)6139

すまい造り

検索